

「安らぐまち」の実現

北九州市消防局長 岸本 孝司



北九州市は、令和6年に「北九州市・新ビジョン（北九州市基本構想・基本計画）」を策定し、目指す都市像として「つながりと情熱と技術で、『一步先の価値観』を体現するグローバル挑戦都市・北九州市」を掲げました。この都市像の実現に向け、自らの夢に挑戦する様々な人々が集い、調和し、活躍できる「稼げるまち」の実現を起点に、心豊かな生活に対する多様なニーズに応える「彩りあるまち」の実現や、誰もが日々の暮らしに安心と安らぎが感じられる「安らぐまち」の実現を重点戦略として定めています。消防局では、この中でも特に「安らぐまち」の実現に重要な役割を担い、安全で安心なまちづくりに取り組んでいます。

令和4年に発生した、北九州市の都心に位置する旦過地区の2度の大火を受け、当消防局では防火指導や査察の強化を進めるとともに、地域が自主的に防火に取り組む仕組みづくりに着手しました。その結果、翌年の火災件数は市政発足以降、最小件数に抑えることができました。

しかしながら、令和6年1月には旦過地区から約300メートルの場所にある木造飲食店街で再び大規模な火災が発生するなど、言葉を失うような衝撃を受けました。これまでも地道な火災予防啓発や防火指導に取り組んできたところですが、市民や事業者の防火意識を高めるためには、これらの活動を粘り強く続けることこそが最も根本的な対策であることを再認識し、地域・警察・消防が一体となって火災予防啓発を行っています。

一方、全国的に大きな問題となっている救急需要の増加は本市でも同様であり、当消防局では、「AIを活用した救急隊運用最適化」の実証実験や、全救急隊にタブレットを配置し、クラウドを利用して病院との情報共有を行う「患者情報管理システム」の導入を推進しています。これにより、救急車の現場到着時間や病院搬送時間の短縮を図り、高齢化が進んでいる北九州市が先駆的なモデル都市を目指します。さらに、消防活動においても、災害時の情報収集・共有システムの検討など、デジタル技術を活用した迅速で効率的かつ効果的な活動を実現する体制を構築していきます。

こうした業務変革の実現には、若手職員の柔軟な発想や行動力が不可欠だと考えています。若手職員による「消防未来創造プロジェクトチーム」を設置し、消防広報やDX推進、働き方改革などをテーマに次世代の消防行政を見据えた取り組みを進めております。SNSを活用した情報発信、デジタル技術による業務効率化、職員のキャリア形成やモチベーション向上を目指す活動を通じて、消防の未来を切り拓こうとしています。

北九州市消防局は、これからも市民一人ひとりが日々の生活の中で「安全」と「安心」を実感できる「安らぐまち」の実現を目指し、職員一丸となって新たな課題に果敢に挑戦してまいります。